



令和元年度

# 卒業証書・学位記授与式

## 式次第

- 一 学位記授与
- 一 学長表彰授与
- 一 その他表彰

以上

令和2年3月13日

四天王寺大学短期大学部



## ■式辞 学長

令和元年度学位記授与を学部・学科・コース別に挙げるに当たり、新型コロナウイルス感染症により同席が叶わなかった学校法人四天王寺学園理事長瀧藤尊淳先生をはじめ役員各位、ならびにご来賓、保護者の皆様のお祝いの気持ちを心に感じつつ、本学教職員と共に、卒業生の皆さんの門出をお祝いできることは、心よりの慶びであります。

本日は、大学院博士前期課程3名、人文社会学部367名、教育学部259名、経営学部144名、短期大学部218名、あわせて991名を本学から送り出すこととなります。

卒業生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。本学の教職員一同、心からみなさんのご卒業をお祝いいたします。

令和元年3月13日現在で大学の卒業生は24,238名、短期大学部の卒業生は30,258名となりました。皆様がこれからの四天王寺大学・短期大学部の新たな歴史を作ることになるでしょう。

みなさんが本学で過ごされた期間を振り返り、どのようなものであったか思い出してください。在学期間中には多くの出来事がありました。

皆さんが入学された2018年は、2月に平昌五輪で羽生結弦選手などが大活躍、5月に将棋の藤井聡太棋士が最年少で七段昇段、9月にテニスの大坂なおみ選手が日本人初の全米オープンで優勝などがありました。その後、ラグビーワールドカップでの日本チームの活躍は記憶に新しいと思います。また、天皇の退位と新天皇の即位により元号が平成から令和に変わりました。

このように在学中には色々な出来事がありましたが、一番大事なことは、よき友達、よき先生と出会えたことではないでしょうか。本学で学び、じっくりと物事を考え、自分を見直す時間をもち得たと思います。また、クラブ活動などで心身を鍛え、アルバイトなどで社会の厳しさを垣間見るようなことがあったでしょう。一人ひとりのみなさんが「有意義な大学生活」「実りある青春時代」と振り返ることができる日々であったことを願っています。

卒業を迎える当たり、心ならずも学位授与式を中止せざるを得なくなり、関係者一同と共に皆様の門出を祝うことが出来なくなったことは大変残念に思います。皆さんは、これからも、我が国の少子化・超高齢化社会、日本経済の停滞、地球規模の気候変動、国際社会の混乱など多くの課題に直面することと思います。人類が経験したことのないこのような色々な変化の中で、皆さんは、これから実社会に出て自分の力で将来を切り開いていかなければなりません。強い精神力を持ち、健康に気を配り、さらに日常生活の管理を自身でしていく必要があります。仕事では、新人である皆さんが、先輩とそん色なく仕事ができるようになって、直ぐには評価して頂けないかもしれません。信頼を得、安心感を与えられるように、もう少し粘ってみてください。

「石の上にも3年」と言う諺があります。

3日 続けることができたなら、1週間は続けられる。

1週間続けることができたなら、3週間続けることができる。

3週間続けることができたなら、3ヶ月続けることができる。

という風にして半年、1年と続けることができる。

1年続けることができたなら、人間関係も含めて一通り仕事を理解できてくるでしょう。こうなればしめたもので、3年経てば職場で無くてはならない、仕事ができる人材になっていると思います。何事も「石の上にも3年」を忘れないで頑張ってください。人間社会で生きていく基本は変わらないと思います。各自が本学で培った建学の精神に根差した「人間力」を力いっぱい発揮して頂くことができれば、道は開け希望はかなえられると思います。

最後に、もう一つ思い出していただきたい重要なことがあります。学園訓の重要性と重みを卒業してから実感しているとの話を卒業生からお聞きします。学園訓を今一度読み上げます。

一、和を以って貴しとなす

一、四恩に報いよ 四恩とは国の恩、父母の恩、世間の恩、仏の恩なり

一、誠実を旨とせよ

一、礼儀を正しくせよ

一、健康を重んぜよ

皆様も社会人となり、いずれは親となることと思いますが、折々に思い出して頂ければと思います。

みなさんの今後のご健康とご健闘を願い、学長式辞といたします。

令和2年3月13日

四天王寺大学短期大学部

学長 岩尾 洋

## ■祝辞 理事長

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

皆さんは、それぞれの課程を無事に修了され、今、ここに、めでたく卒業の榮譽を得られました。皆さんはもちろんのこと、ご家族の方々のお慶びもひとしおのことと、心からお祝い申し上げ、同時に四天王寺大学に対しまして、これまでご協力とご理解を賜りましたことに対し、厚く御礼申し上げます。

本来であれば皆さんの門出を盛大にお祝いしなければならないところではありますが、今年度は新型コロナウイルスによる感染症の拡大により、規模を縮小しての学位授与式となりました。皆様のお気持ちを拝察いたしますと断腸の思いでございますが、皆様の安全の確保を最優先に考え、苦渋の決断をいたしました。何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

さて、皆さんは本学に在学中、学園建学の祖 聖徳太子のみ教えを学び、建学の精神である「帰依渴仰・断悪修善・速證無上・大菩提處」をよく体し、礼拝・瞑想・写経という修行の一つひとつを実践体得してこられました。その努力に対し、心から敬意を表します。

今年度は平成というひとつの時代が終わり、令和という新しい時代が到来いたしました。皆さんは、この令和初の卒業生として、明日から輝かしい社会人としての一步を踏み出されるわけです。

ところが、近年は将来の予測が大変難しい、複雑で変化の激しい時代となっています。不安定な世界情勢や経済情勢などは私たちの日常生活にも大きな影響を与えており、これによって、各業種の仕事の在り様も、年々変わりつつあります。

まさに激変の時代ですが、建学の祖である聖徳太子の時代、千四百年前も、国内外の状況は非常に厳しく激動の時代でした。豪族が権力争いを繰り返し、大国 隋をはじめとする近隣諸国の脅威にさらされる中で太子は、仏教を基本に据え、柔軟な考え方で国家をまとめ対等外交の基盤をつくられたのです。そして、人々の暮らしがよくなるようにと敬田院・悲田院・施薬院・療病院の四箇院をつくるとともに、「和」を貴ぶ十七条憲法を制定されたのです。

皆さんは、本学にて、その太子のご精神を十分に学び、受け継がれました。一言で表すならば「慈悲共生」の精神です。これは、他人(ひと)の悲しみや苦しみ、喜びを相手の立場になって感じることです。自分を大切にし、自分と同じ、もしくはそれ以上に他人を思いやることができる心豊かな人間として、他と和し、共に生きていくための基礎を養っていただけたものと思います。

これからの社会は、感性や対話力といった人間ならではの能力が益々重要になってまいります。先ほども述べましたとおり、今年度は元号が令和になりました。この令和という元号には「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という意味が込められております。まさしく往古より日本人

が大切にしてきた「和の心」と言えるのではないのでしょうか。

誠意や思いやりがわからぬ人間はおりません。慢心し、驕り高ぶれば親しい間柄であろうと人の心は離れていってしまいます。しかし、お互いが誠意と礼儀を尽くし、心を寄せ合えば、必ずや立場や国境を越えて分かり合える時が来るでしょう。

本学で身につけられた「和の心」は間違いなく皆さんの人生の糧となると確信しております。この先、皆さんがどのような進路に進もうと、社会が抱えている困難で複雑な課題は何処にでもあり、後悔や、時には挫折を味わうこともあるかもしれません。しかし、皆さんならばその困難を乗り越えられると信じております。

皆さん、自信を持って、それぞれの進むべき目標に向かい、失敗を恐れず、果敢に挑戦してください。そして、それぞれの分野で、世の中に尽くしていただくとともに、一人ひとりが「和の心」を未来に継承していただきたいと切に願うところです。

皆さんの前途に幸多からんことを心よりお祈りいたしまして、簡単ではありますが、お祝いの言葉といたします。

令和2年3月13日  
学校法人四天王寺学園  
理事長 瀧藤 尊淳

## ■祝辞 同窓会会長

令和元年度卒業証書・学位記授与式にあたり、「四天王寺大学同窓会」を代表致しまして一言御挨拶申し上げます。

四天王寺大学短期大学部の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、本日まで立派にご子息・ご息女を育ててこられた保護者の皆様にも、心より御祝を申し上げます。

「四天王寺大学同窓会」は、旧女子短大・女子大時代より五十年以上にわたり受け継がれ、卒業生相互の親睦はもとより、在学生の皆さんとの交流を図り、母校の発展に寄与する事業を行っております。卒業生の皆様方には、入学時、協力金にご支援いただき誠に有難うございました。そのあたたかいご支援をもとに、皆さんに豊かな学生生活を送っていただくために、「同窓会奨学金制度」、「同窓会会長表彰」並びに「課外活動費の助成」などを実施して参りました。

これから皆さんは大学を離れ、社会へ出られますが、在学中に体得された仏教精神を支えに、本学の同窓生として、様々な分野でご活躍されますことを願っております。

最後になりましたが、学園訓のひとつでもある「和を以って貴しとなす」を忘れずにそれぞれの夢に向かって大いに羽ばたいてください。また、これからのご活躍に心からの期待をこめて、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

令和2年3月13日  
四天王寺大学同窓会  
会長 森田 貴夫

## ■卒業生を送ることば

冬の厳しい寒さも和らぎ、いよいよ春めいてまいりました。希望に胸を膨らませ、この佳き日に晴れてご卒業なさる先輩方、本日はご卒業おめでとうございます。

今、先輩方は、この四天王寺大学短期大学部での二年間を振り返り、どのような想いでいらっしゃるのでしょうか。

保育科では、保育士、幼稚園教諭、そしてライフケア専攻では、介護福祉士、ライフデザイン専攻では自分の目指す職業に向けて、それぞれ授業、演習の日々を重ねていらっしゃいました。苦しいとき、辛いときもあったと思いますが、それを乗り越え、弛みない努力を続けることの大切さを、私たちにを見せてくださいました。

私が受講していたインテリアデザイン実習では、先輩方の作品展示から刺激を受け、自分の制作に生かすことができました。ライフデザインゼミナールの授業では、就職活動の体験談を話される先輩の姿が、とても輝かしくみえたものです。

また、学部学科を超え、放課後や休日にも熱心に取り組んだサークルやクラブ活動、さらに大学祭でのステージ発表を通して、仲間と絆を深めていく様子は、感動的でした。先輩方は私たちにとって常に大きな存在で、かけがえないものをたくさん残してくださいました。

その先輩方とのお別れがこんなにも早く訪れることに、祝福の気持ちと寂しさで胸がいっぱいです。私はこれから二年生になると同時に、就職活動という初めての経験を前に期待と不安を抱いておりますが、学生生活を終え、それぞれの道に進んでいかれる先輩方は、もっと大きな期待とともに、一抹の不安を抱えていらっしゃるかもしれません。

しかし、この二年間で得た知識と教養、そして、たくさんの人々との出会いは、先輩方の誇りと糧となり、これからの人生において、大きな心の支えとなると信じています。

最後になりましたが、先輩方が進まれる道でのさらなるご活躍とご多幸を心よりお祈り申し上げ、送る言葉とさせていただきます。

令和2年3月13日  
四天王寺大学短期大学部  
在学生代表

## ■お別れのことば

寒さの中にも、春の気配を感じられる頃になりました。今日この良き日に、私たちはこの四天王寺大学を旅立ちます。

さて、思い起こせば二年前の春、私は期待に胸を膨らませながら入学しました。入学した保育科では一回生と二回生が合同で学ぶ「保育実践演習」を通して、活動の度に先輩方の存在の大きさを感じ、先輩方のようにになりたい、少しでも近付けるようになりたいと刺激を受けました。

初めて本格的なグループ活動を行った出前保育では、今まで話したことがなかった人達との活動に、最初は戸惑いながらも、限られた時間の中で子どもたちに楽しんでもらう為にはどのように工夫をするのかをグループで話し合い、何度も練習を積み重ねました。幼稚園の子どもたちの喜ぶ姿から得られた達成感は今も忘れられません。

一年生の十月から始まった学外実習は辛くて逃げ出したくなる時もありました。そのような時、心の支えになったのは、実習先を訪問して下さった先生方の温かい励ましのお言葉や、知識と経験に満ちたアドバイスでした。また、同じ夢に向かって頑張る仲間と励まし合い、支え合うことで互いに大きく成長し、目の前の壁を一つ一つ乗り越えることができました。

二年生の冬の運動会では各グループに分かれ、司会や競技進行など全てを自分たちで行いました。話し合いの中ではできると思っていたことが実際に動いてみると上手くいかず、情報共有の大切さや大人数での協働の難しさを実感しました。しかし、一人一人が自分の持っている能力を発揮しながら仲間と協働し、一つのを創り上げた経験は自信となり、将来への覚悟や決意を生み出しました。

二年間、数々の補講や実習で埋めつくされたスケジュール帳ですが、明日からの大学での予定は記されていません。これからは、人間形成の基礎を培う保育の仕事に誇りに持ち、社会人として新たな道を歩み始めます。「慈愛に満ちた保育」今改めてこの言葉を胸に刻み、これからも学び続けることをここに決意致します。

時には苦しくて心が折れそうになるときがあるかもしれませんが、私たちがこの保育科で得たものはきっとこれからの私たちを支えてくれることと思います。

皆と過ごした二年間、本当に楽しく、有意義で価値ある時間でした。本当にありがとうございました。明日から其々の道を進みますが、皆と過ごした貴重な時間を糧に、社会のために頑張ります。皆も一緒に其々の道で頑張りましょう。

今、私たちの社会は、環境問題や国際問題を抱え、解決しなければならぬことも多くあります。私たちは先生方から受け継いだ知識を基に、自分なりの意見や考え方を持って、社会の問題に向き合い、幸せな令和の時代を仲間と共につくりたいと思います。四天王寺大学を卒業したことに誇りを持って生きていきたいと考えています。

いつもそばで温かく見守り、私のことを一番に理解し、応援し続けてくれた家族、熱心な指導でしっかりサポートしてくれた先生方、私たちが快適な



大学生活を送れるように環境作りをしてくれた職員の皆様、多くの方々のおかげで貴重な経験や体験、充実した学生生活を送ることができました。卒業後ご指導ご鞭撻の程、よろしく申し上げます。ありがとうございました。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご多幸をお祈りし、四天王寺大学並びに四天王寺大学短期大学部の発展を願ひまして、お別れの言葉といたします。

令和2年3月13日  
四天王寺大学短期大学部  
卒業生代表